

イベントで宇治山田駅前を元気に!

学部・学年を超えたメンバーと、シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢様と協力して、12月中旬にウィンターフェスの開催をしています。イベントの運営、当日の企画を通して、地域の方・子どもたちとコミュニケーションをとり、宇治山田駅前を活性化することを目指しています。

メンバー数 : 11名
活動場所 : 伊勢市
実施主体 : シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 (伊勢市観光文化会館)
担当教員 : 筒井 琢磨 (現代日本社会学部)
活動年度 : R02, R03, R04, R05, R06, R07



1年の活動まとめ・考察 (成果と課題)

今年のイベントでは、四つのコーナーを設置し、それぞれ役割を分担して運営を行った。全体のテーマをクリスマスとし、参加者が季節感を十分に味わえるよう、企画内容や装飾に工夫を凝らした。各コーナーでは、子ども一人ひとりに寄り添った声かけや対応を意識し、安心して楽しめる雰囲気づくりを重視した。その結果、子どもたちの笑顔や積極的な参加する姿が多く見られた。

また、四つのコーナーをすべて回るスタンプラリーを実施したことで、参加者が自然な流れで全コーナーに足を運びきっかけをつくることができた。この取り組みにより、特定の企画だけで終わることなく、イベント全体を楽しんでもらうことにつながったと感じている。会場全体の雰囲気も明るく、活気のあるものとなり、企画として一定の成果を上げることができた。

一方で、課題点も明らかになった。特定のブースに参加者が集中したことで、一時的に人手が不足し、対応が追いつかなくなる場面が見られた。参加者の滞在時間を確保しつつ、円滑な運営を行うためには、事前に混雑を想定した人員配置や役割分担をより綿密に行う必要があったと考える。また、細かな準備や最終確認が不十分な点もあり、チーム内での情報共有や連絡体制の徹底が今後の課題である。

今回のイベントを通して、多くの成果を得ると同時に、改善すべき点も明確になった。これらの課題を振り返り、次回のイベントに活かすことで、より満足度の高い企画運営を実現していきたい。

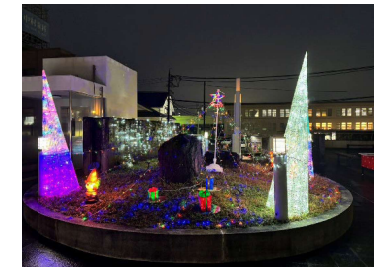
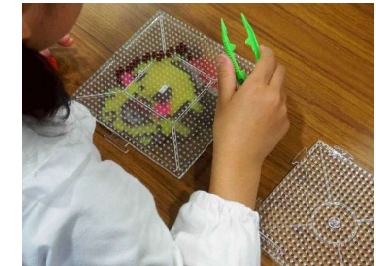
活動を通して学んだこと

活動を通して、子どもたちとのコミュニケーションの取り方を学ぶことができた。伝え方を工夫しわかりやすい説明を行い、子どもの意見を尊重することの大切さを実感することができた。

実施主体からのコメント

シンフォニアテクノロジー 響ホール伊勢
ご担当者様

本イベントでは、学生達それぞれの自主性が発揮されたイベントとなったと考える。毎年恒例のイベントであるが、新しいアイデアを出し合い、来場者が会場全体を楽しめるようなイベントに仕上げてくれた。昨年までは「先輩」だった学生達が「先輩」になり、新しいメンバーを牽引している姿に頼もしさを感じ、これまでの先輩方のリーダーシップが継承されていると感じた。準備期間から本番まで全体を通して、よいイベントに仕上げてくれた。



担当教員より

現代日本社会学部 筒井 琢磨

去年からのメンバーが中心となり、企画に新しい工夫を加えてコーナーごとで準備を進め、当日もチームワークを発揮してうまくおもてなしをしていました。コーナーを回る子どもたちの笑顔がすべてを物語っていたように思います。

コーナー間の連携が例年なかなか取れないのが課題になっています。全体打合せ時期をもう少し早めにスタートすることで、他のコーナーの状況もお互いに把握することができ、当日の流れもスムーズにいくのではないかと思います。よかったところもよくなかったところもぜひ今後の活動に反省点を活かしましょう!



こんな人におすすめ!

- ・子ども達と触れ合うことが好きな人
- ・地域の活性化に興味のある人
- ・イベントの企画・運営に興味のある人
- ・CLL活動に参加したいがどれに参加するか迷っている人

月別活動

9月 会議・打ち合わせ

12月 ウィンターフェス開催

成果物 / 制作物